

# 運営方法の検討(案)

資料2-8

## 基本方針

・より安全な登山の実現のため登山関係者がお互いに助け合う「自助自立」の考え方を基本とする

## 見守り体制と救出

### 常設見守り(検知施設)

・山小屋、登山口の施設等に検知者端末を設置し、主な登山ルートを大まかにカバー

#### 【課題】

・山小屋間などを連携するアドホックネットワークの構築  
・イニシャル、ランニング・コストの負担方法



### 周辺登山者の見守り

・常設施設でカバーできない場所は、登山者端末にSOS信号の受信機能を備えることで周辺登山者が補完

#### 【課題】

・周辺登山者の役割  
・登山者が受信した情報の通報方法(転送機能など)



・道迷い等軽微な事故は、関係者の相互支援で解決  
・救助機関の対応が必要な場合は、警察(山岳救助隊)等へ通報し救助を要請

## 普及に向け

### ・端末のレンタル

登山者がそれぞれ端末を購入して使用することを原則とするが、実績が積み、価格がこなれるまでの間は、レンタル端末を利用できる体制を併行して整備する必要がある。(ヤマタンの手法参考)

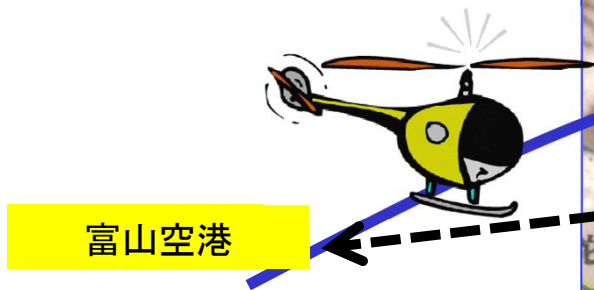
### ・規格の統一

メーカーが創意工夫を行える余地を残しつつ、基本部分機能に関わる部分は登山関係団体等が中心になって企画を統一する。

# 民間のアクセスポイント(山小屋等)の協力による連携捜索用ネットワークイメージ



早月小屋



富山空港

